

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohanaこどもルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			
	2	職員の配置数は適切である	✓			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	✓			建物の2階にあり、エレベーターがないため、必ず階段を使っていたことになるなど、構造上の不便さをおかけしている。現実的な面で行うことはなっていますが、障害の特性に応じこちらでできる対応や配慮は検討していきたい。当事業所が2階にあることで、子どもたちが急にパッと道路に飛び出すことは防げる点もあると思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓		毎日の清掃に加え、本年度は業者による床・エアコンの清掃が入り、床が綺麗に保たれ、活動により取り組みやすくなった。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	✓			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		今後必要であると感じるため、法人内で実施検討中。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		事業所内の研修はもちろん、希望があれば外部への研修にも参加できる環境がある。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓		必要に応じて参照している。日頃から子どもたち一人一人の行動を見ながら状況を把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	✓			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	✓			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		主に各曜日のスタッフで、適宜話し合いをしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		毎年度同じ内容ということもなく、参加する子どもたちに合わせて立案している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	✓			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓		小さなことも職員間で話し合える職場環境があり、必要な情報は必ず共有している。また、打ち合わせに時間を取られすぎることが職員の負担にならないように適宜調整して行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓		全体/個別の活動など、細かく記録を取り、次回への改善につなげている。	
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓			

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohanaこどもルーム

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓		担当職員が中心に参加している。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	✓				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		該当なし			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		該当なし			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			✓		移行支援は未実施に留まっている。必要に応じて見学に向う、会議に参加して状況の共有を行うなどしていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			✓		移行支援は未実施に留まっている。必要に応じて見学に向う、会議に参加して状況の共有を行うなどしていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓			必要に応じて連携を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			✓	イベントを通して、利用児以外(きょうだい児など)にもご利用いただいている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			✓		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓			親子通所クラス等で、保護者と共に目の前でお子さんの様子を共有し、都度共有できる環境を整えている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている			✓	ペアレントトレーニングとしては行っていないが、日々のやり取りの中で対応や支援方針を共有している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓			各ご家庭の上限負担額などを確認しながら、主に利用者契約時に説明を徹底している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	✓				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓			丁寧なフィードバックを心掛けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			✓		コロナ禍も落ち着き、現在検討中(実施方法等について)。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓			主にアプリ(LINE等)や掲示板を用いて発信・告知している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	✓				
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓				

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohana子どもルーム

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		✓		地域の方を対象に広く一般的に、とまでは現在至っていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓		利用者契約時など、保護者への周知を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓			火災や地震のみではなく、様々な災害・非常事態を想定した実践的な訓練を今後検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	✓			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓		毎日の朝礼時に全体で確認合っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	✓		必要であれば、個別支援計画への文面記載や保護者への確認を徹底し、了承をいただいたうえでの実施している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohanaこどもルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			
	2	職員の配置数は適切である	✓			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	✓			建物の2階にあり、エレベーターがないため、必ず階段を使っていたことになるなど、構造上の不便さをおかけしている。現実的な面で行うことはなっていますが、障害の特性に応じこちらでできる対応や配慮は検討していきたい。当事業所が2階にあることで、子どもたちが急にパッと道路に飛び出すことは防げる点もあると思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓		毎日の清掃に加え、本年度は業者による床・エアコンの清掃が入り、床が綺麗に保たれ、活動により取り組みやすくなった。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	✓			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		今後必要であると感じるため、法人内で実施検討中。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		事業所内の研修はもちろん、希望があれば外部への研修にも参加できる環境がある。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓		必要に応じて参照している。日頃から子どもたち一人一人の行動を見ながら状況を把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	✓			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	✓			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		主に各曜日のスタッフで、適宜話し合いをしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		毎年度同じ内容ということもなく、参加する子どもたちに合わせて立案している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	✓			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓		小さなことも職員間で話し合える職場環境があり、必要な情報は必ず共有している。また、打ち合わせに時間を取られすぎることが職員の負担にならないように適宜調整して行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓		全体/個別の活動など、細かく記録を取り、次回への改善につなげている。	
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓			

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohanaこどもルーム

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓		担当職員が中心に参加している。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	✓				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		該当なし			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		該当なし			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			✓		移行支援は未実施に留まっている。必要に応じて見学に向う、会議に参加して状況の共有を行うなどしていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			✓		移行支援は未実施に留まっている。必要に応じて見学に向う、会議に参加して状況の共有を行うなどしていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓			必要に応じて連携を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			✓	イベントを通して、利用児以外(きょうだい児など)にもご利用いただいている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			✓		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓			親子通所クラス等で、保護者と共に目の前でお子さんの様子を共有し、都度共有できる環境を整えている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている			✓	ペアレントトレーニングとしては行っていないが、日々のやり取りの中で対応や支援方針を共有している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓			各ご家庭の上限負担額などを確認しながら、主に利用者契約時に説明を徹底している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	✓				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓			丁寧なフィードバックを心掛けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			✓		コロナ禍も落ち着き、現在検討中(実施方法等について)。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓			主にアプリ(LINE等)や掲示板を用いて発信・告知している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	✓				
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓				

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohana子どもルーム

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		✓		地域の方を対象に広く一般的に、とまでは現在至っていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓			利用者契約時など、保護者への周知を行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓			火災や地震のみではなく、様々な災害・非常事態を想定した実践的な訓練を今後検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	✓			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓			毎日の朝礼時に全体で確認合っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	✓			必要であれば、個別支援計画への文面記載や保護者への確認を徹底し、了承をいただいたうえでの実施している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohanaこどもルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			
	2	職員の配置数は適切である	✓			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	✓			建物の2階にあり、エレベーターがないため、必ず階段を使っていたことになるなど、構造上の不便さをおかけしている。現実的な面で行うことはなっていますが、障害の特性に応じこちらでできる対応や配慮は検討していきたい。当事業所が2階にあることで、子どもたちが急にパッと道路に飛び出すことは防げる点もあると思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓		毎日の清掃に加え、本年度は業者による床・エアコンの清掃が入り、床が綺麗に保たれ、活動により取り組みやすくなった。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	✓			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		今後必要であると感じるため、法人内で実施検討中。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		事業所内の研修はもちろん、希望があれば外部への研修にも参加できる環境がある。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓		必要に応じて参照している。日頃から子どもたち一人一人の行動を見ながら状況を把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	✓			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	✓			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		主に各曜日のスタッフで、適宜話し合いをしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		毎年度同じ内容ということもなく、参加する子どもたちに合わせて立案している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	✓			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓		小さなことも職員間で話し合える職場環境があり、必要な情報は必ず共有している。また、打ち合わせに時間を取られすぎることが職員の負担にならないように適宜調整して行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓		全体/個別の活動など、細かく記録を取り、次回への改善につなげている。	
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓			

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohanaこどもルーム

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓		担当職員が中心に参加している。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	✓				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		該当なし			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		該当なし			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			✓		移行支援は未実施に留まっている。必要に応じて見学に向う、会議に参加して状況の共有を行うなどしていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			✓		移行支援は未実施に留まっている。必要に応じて見学に向う、会議に参加して状況の共有を行うなどしていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓			必要に応じて連携を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			✓	イベントを通して、利用児以外(きょうだい児など)にもご利用いただいている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			✓		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓			親子通所クラス等で、保護者と共に目の前でお子さんの様子を共有し、都度共有できる環境を整えている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている			✓	ペアレントトレーニングとしては行っていないが、日々のやり取りの中で対応や支援方針を共有している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓			各ご家庭の上限負担額なども確認しながら、主に利用者契約時に説明を徹底している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	✓				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓			丁寧なフィードバックを心掛けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			✓		コロナ禍も落ち着き、現在検討中(実施方法等について)。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓			主にアプリ(LINE等)や掲示板を用いて発信・告知している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	✓				
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓				

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 Ohana子どもルーム

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		✓		地域の方を対象に広く一般的に、とまでは現在至っていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓			利用者契約時など、保護者への周知を行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓			火災や地震のみではなく、様々な災害・非常事態を想定した実践的な訓練を今後検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	✓			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓			毎日の朝礼時に全体で確認合っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	✓			必要であれば、個別支援計画への文面記載や保護者への確認を徹底し、了承をいただいたうえでの実施している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。